

長野県のシダ植物雑記 (11)

大塚 孝一 *

Miscellaneous notes on Pteridophytes in Nagano Prefecture (11)

Koichi Otsuka

76 イトシシラン *Haplopteris mediosora* (Hayata) X.C.Zhang - *Vittaria mediosora* Hayata

イトシシランは台湾安里山を基準標本産地として記載され、台湾とヒマラヤに分布する(中池 1992)。日本産を最初に報告したのは、東京教育大学の伊藤洋教授で、1955 年 7 月に日本シダの会の例会が開催された奥秩父の十文字峠から梓白岩のコース上で田川基二氏が取られ、その後の調査で同行された芹沢俊介氏が再発見された(伊藤 1969)。

伊藤(1969)によれば、この植物の全形は細長く、特に葉柄の部分が非常に細く、葉の幅も狭く 2-3mm。裏面にも表面にも細かい粉状の毛がある。葉柄基部のリン片は細長く、先が糸状に伸び軟らかく、色はシシランのよりもやや淡い。この時の標本では胞子のう群はついていないとのことであるが、岩槻(1992)によれば、胞子のう群は中肋と葉縁の中間にあり、葉裏を埋めるように見える。伊藤(1969)の報告で産地は奥秩父とされ、埼玉県か長野県かあるいは両県かは示されていない。また、日本では現在でもこの産地しか知られていない。以前詳しい方から埼玉県側であると聞いたこともあり、「長野県植物誌」に載せていなかったが、今回京都大学標本庫 KYO の標本を見る機会があり、長野県産を確認することができた。最近の生育状況等は不明であるが、現地で確認したいと考えている。

[標本記録] 南佐久郡川上村梓山十文字峠 (M.Hutoh 2007.1, 1958.8.8, KYO 写真 46)

77 ミタケトラノオ *Asplenium sarelii* × *A. tenuicaule* (*Asplenium* × *mitakense* Nakaike, nom. nud.)

本シダは、コバノヒノキシダ *Asplenium sarelii* とイワトラノオ *A. tenuicaule* の雑種で、両者の中間的な形態をしていて、胞子は不定形。コバノヒノキシダに似るが、葉質が薄く、羽片の切れ込みが深くなる。中池(1992)が「新日本植物誌シダ編改訂増補版」の中で記述したシダで、両親の混生する岩上に生え、埼玉県、東京都、神奈川県に分布するとした。

長野県ではいまだ知られていなかったが、2013 年 11 月、信州シダの会の例会での観察中に、両種が混生するコケむした石垣で見いだされた。

[標本記録] 飯田市南信濃八重河内(大塚孝一 2013.11.3, NAC168265 写真 47, NAC168266 ~ 168268)。その他に検し得た標本: 泰阜村万古川 alt.300m (奥原弘人 1989.10.21, SHIN146453)。NAC; 長野県環境保全研究所植物標本庫。

78 イナノキシノブ *Lepisorus oligolepidus* × *L. thunbergianus* (*Lepisorus* × *inaense* Tsutsumi et Nakaike, nom. nud.)

ウロコノキシノブ *Lepisorus oligolepidus* とノキシノブ *L. thunbergianus* の雑種で、両種の中間的な形態をして、胞子は不定形。全体はノキシノブの葉を広くした感じで、葉面に宿存性のリン片を多く付ける。最初、堤(1982)により天龍村福島で発見されイナノキシノブと呼称された。産地は少なく、テンリュウノキシノブとも呼ばれる。平成 25 年度の信州シダの会例会観察会のおり、飯田市南信濃で見つかった。また、阿南町でも採集されている。

[標本記録] 飯田市南信濃八重河内(大塚孝一 2013.11.3, NAC168264 写真 48)、天龍村福島(堤久 1981.7.3, TNS1161566)、阿南町売木川沿い(鈴木正勝 1988.4., TNS1160903)

79 リョウトウイタチシダ *Dryopteris kobayashii* Kitagawa

芹沢(2009)はヒメイタチシダ *Dryopteris sacrosancta* に関東型と西日本型の 2 つの型があることを認め、関東型を中国大陸関東州小平島産の標本に基づき記載されたリョウトウイタチシダ *Dryopteris kobayashii* に当てた。両種の違いについて、芹沢(2009)は以下の様に述べている。

「関東型: 葉身は卵形、長さ 15 ~ 35cm、幅 8 ~ 20cm、質は薄い。羽片は鎌形に曲がり、切れ込みが深くて、葉身上部の長さ 5cm 程度の羽片について見ればほぼ全縁、裂片は卵形~長楕円形、幅 1.5 ~ 2.5mm 程度である。小羽片は大きくてもほとんど鋭頭にならない。胞子のう群は熟して直径 1 mm 程度である。西日本型: 葉身は五角状広卵形、長さ 30

* 大塚孝一 〒380-0952 長野市宮沖 199-1

～50cm、幅20～30cm、質はやや厚い。羽片はほとんど鎌形に曲がらず、切れ込みが浅くて、長さ5cm程度の羽片について見れば中から深緑、裂片はやや三角状で、基部の幅2.5～5mm程度である。大きい小羽片は鋭頭になる。胞子のう群は闊東型に比べてやや大きい」。ヒメイタチシダは葉面に光沢がでるものが多い。長野県では木曾南部と下伊那南部から知られていたが、長野県のもはそのほとんどがリョウトウイタチシダにあたるとされ、芹沢(2009)はリョウトウイタチシダとして、南信濃村遠山川(芹沢31805, 1980.9.15 AICH)の標本をあげ、また、ヒメイタチシダとして、天龍村鶯巣～伊那小沢(堤 s.n. 1981.6.30.TNS)の標本をあげている。

平成25年度の信州シダの会例会観察会のおり、飯田市南信濃で見ている。他にSHINとNACの標本を再検討してみたので、以下に標本記録を示す。
[標本記録] 飯田市南信濃八重河内(大塚孝一2013.11.3, NAC168270 写真49)。その他検し得た標本: 飯田市南信濃名古山(浅野一男1963.9.21, SHIN172753)、同上村北又沢 alt.700m(藤原陸夫1997.9.3, NAC120487)、大鹿村落合(浅野1964.4.20, SHIN172748)、泰阜村金野(浅野1966.5.8, SHIN172758)、同田本(浅野1964.3.26, SHIN172746)、阿南町和知野川 alt.450m(藤原1998.5.24, NAC78804)、天龍村天竜川(藤原1997.7.19, NAC120481)、同熊伏山(北条節夫1965.6.5, SHIN172752)、大桑村白山神社(藤原1999.10.23, NAC82293)。

ヒメイタチシダの標本: 飯田市南信濃万古(浅野1966.5.15, SHIN172761)、天龍村大蛇(浅野1966.7.3, SHIN172754)、同藁野 alt.400m(藤原1998.12.18, NAC113105)、南木曾町柿其川 alt.500m(藤原1998.11.29, NAC113109)。

80 キヨズミイノデ *Polystichum* × *kiyozumianum* Sa.Kurata

本シダはサイゴクイノデ *Polystichum pseudomakinoides* とイノデモドキ *P. tagawanum* の雑種で、前者に比べて葉面の緑色が濃くやや光沢があり、葉身の先は尾状になり、胞子のう群の付きはずっと良い。後者に比べて胞子のう群はより辺よりにつき、また、裂片の耳近くにつく傾向がより強い。葉柄下部には黒色鱗片がでる。今回飯田市で採集された。今まで天龍村から知られていた(大塚1999)。

[標本記録] 飯田市座光寺 alt.550m(大塚孝一2013.11.24, NAC168275 写真50)。

81 「長野県産シダ植物目録」(大塚2004)に追加すべきシダ

近年新たな産地や標本が確認された種類について、「長野県産シダ植物目録」(大塚2004)に追加すべきシダとして整理する。いずれも、「長野県植物誌」(清水編1997)へ追加される種類である。

(1) ナチクジャク *Dryopteris decipiens* (Hook.) Kuntze

倉田・中池(1997)に長野県内に分布することが示されていたが、証拠標本(天龍村坂部 堤久1990.TNS)の確認が、現在もできず詳細が不明であった。このため、「長野県産シダ植物目録」や「長野県植物誌」には記録されなかったが、今回、別途飯田市から採集され、長野県第2の産地となった。
[標本記録] 飯田市座光寺(上野勝典・上野由貴枝2013.8.24, NAC168259 写真51)。

(2) イブキシダ *Thelypteris esquiroliae* (H. Christ) Ching var. *glabrata* (H. Christ) K.Iwats.

天龍村で採集された。長野県内で確認されたのは初めてのことで、地球温暖化により暖地性のシダが分布を拡げている良い事例と考えられる。

[標本記録] 天龍村倉ノ平 alt.300m(上野・上野2013.9.22, NAC168261 写真52)

(3) アイチャセンシダ *Asplenium trichomanes* × *A. tripteropus*

チャセンシダとイヌチャセンシダとの雑種。

[標本記録] 天龍村倉ノ平 alt.300m(上野・上野2013.11.2, NAC168258 写真53)。

謝辞

本報告の取りまとめにあたり、所蔵標本の閲覧・検討をお許しいただいた京都大学植物標本庫(KYO)、国立科学博物館(TNS)、信州大学理学部(SHIN)の管理者に感謝いたします。

引用文献

伊藤洋(1969)台湾・ヒマラヤに次いで奥秩父が第3の産地となったイトシラン, 秩父自然科学博物館研究報告 No.15: 65-66.

岩槻邦男編(1992)日本の野生植物 シダ, 平凡社, 東京.

倉田悟・中池敏之(1997)日本のシダ植物図鑑第8巻, 東京大学出版会.

中池敏之(1992)新日本植物誌シダ編改訂増補版,

至文堂、東京.

大塚孝一 (1999) 長野県のシダ植物雑記 (8), 長野県植物研究会誌第 32 号: 52-55.

大塚孝一 (2004) 長野県産シダ植物目録. 「信州のシダ」 pp.162-171, ほおずき書籍.

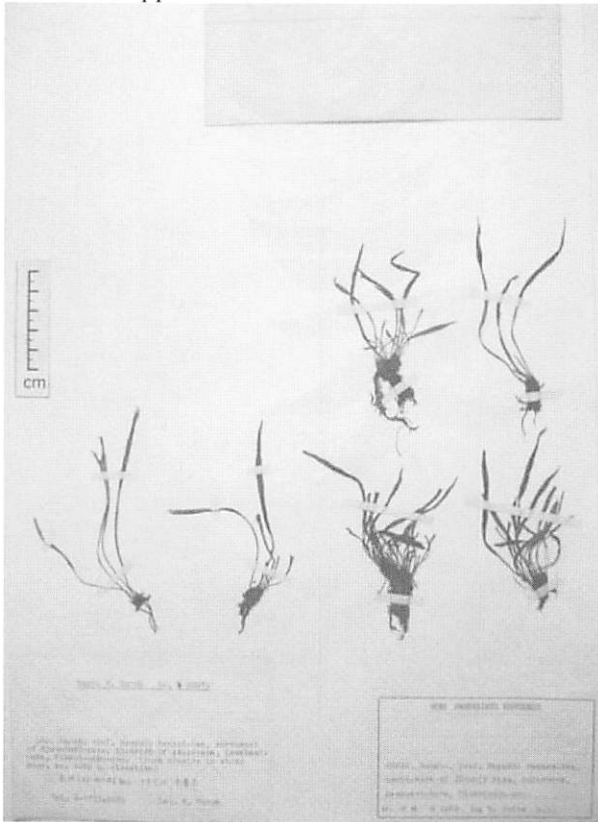


写真 46 イトシラン *Haplopteris mediosora*

168264

芹沢俊介 (2009) 日本産シダ植物雑記 (5), シデコブシ (*Shidekobushi*) 1: 81-101.

清水健美編 (1997) 長野県植物誌, 信濃毎日新聞社.

堤久 (1982) 長野県のシダ採集ノート 1, 長野県植物研究会誌第 15 号: 23-24.

168265

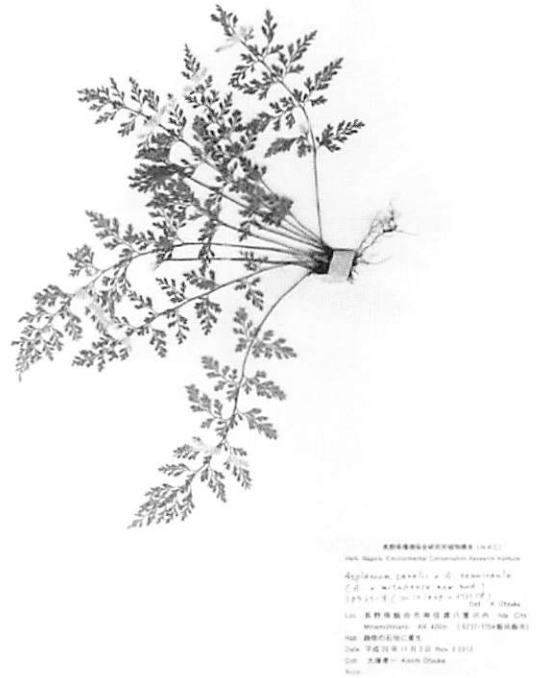


写真 47 ミタケトラノオ
Asplenium sarelii × *A. tenuicaule*

168270



写真 48 イナノキシノブ
Lepisorus oligolepidus × *L. thunbergianus*



写真 49 リョウトウイタチシダ *Dryopteris kobayashii*

